



モノづくり推進会議

申込締め切り ● 11月24日(火) 参加費 ● 無料

<http://www.1day-smea.jp/toyama/>

地域活性化リレーシンポジウム in 富山

「富山発 モノづくりの未来」

日時：2009年11月25日(水) 14:45～17:00

併催：一日中小企業庁 in とやま 9:30～17:00

会場：富山国際会議場

(富山市大手町1番2号 TEL:076-424-5931)

主催：モノづくり推進会議・日刊工業新聞社

わが国のモノづくりを取り巻く環境が今、大きく変わろうとしています。産業界は温室効果ガスの排出量削減など地球環境問題に対応することはもちろん、エネルギー問題、生活の安心・安全の確保、少子高齢化など多くの課題を見据えながら新たなモノづくりを進めていかなければなりません。戦後復興期から高度経済成長を実現し、日本のモノづくりは世界に冠たるものともてはやされましたが、今後もそのモノづくりの絶え間ない変革に果敢に挑戦し、新しい時代に対応したモノづくりを実践することが求められています。モノづくりの国際競争力を高め、わが国の経済・産業を発展させていくには、何よりも地域の活性化が不可欠です。製造業が集積する富山県はこれまでもモノづくりの高度化に力を注ぎ、新技術や新産業の創出に取り組んできました。今まさに次世代を見据えたモノづくりが結実しつつある富山の地でモノづくりの未来を考えたいと思います。今回のシンポジウムは「一日中小企業庁 in とやま」との併催で実施します。

プログラム

本プログラムは予告なく変更する場合がございます。ご了承下さい。

14:45～14:50

主催者挨拶 日刊工業新聞社 専務取締役 佐野 友昭

14:50～15:50

講演

テーマ「今、モノづくり企業のなすべき事！」
ものづくり大学 名誉教授

田中 正知 氏

(略歴)

1967年 名古屋大学大学院 工学研究科航空学コース修士課程修了
1967年 トヨタ自動車工業株式会社(現トヨタ自動車株)へ入社
1993年 同本社 生産調査部部長
1995年 同本社 物流管理部部長
2000年 ものづくり大学教授
2007年 株式会社Jコスト研究所設立



15:50～17:00

講演

テーマ「私の経営理念とモバイル制御
(自動車、電車、飛行機、衛星)産業への展開」

多摩川精機株 代表取締役会長
萩本 博幸 氏

(略歴)

1958年 東京工業大学大学院 博士課程修了 工学博士
1955年 多摩川精機株式会社取締役
1958年 同社 常務取締役
1965年 同社 取締役副社長
1968年 同社 代表取締役社長就任
1998年 同社 代表取締役会長就任



お問合せ先

日刊工業新聞社「モノづくり推進会議」事務局

TEL.03-5644-7608 FAX.03-5644-7209 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1 住生日本橋小網町ビル

地域活性化リレーシンポジウム in 富山

富山発 モノづくりの未来

講演

今、モノづくり企業のなすべき事！

去年の今ごろから経済環境はひどくなり、特に自動車は大変な状況にある。この不況を脱しても従来通りモノが売れることはまずない。景気の波動的では説明がつかない大変革期だという人もい

る。変革の好機とも言われるが、皆さんの会社では今、何をやってらよいのか、一緒に考えていた

だきたい。
私はトヨタ自動車に在職中(2000年まで)多くの会社の改善を手伝ったが、トヨタの名でお手伝いする時の条件は雇用確保だった。「人は減らすな、在庫を減らせ」別の言い方では「徹底したリードタイムの短縮を図れ」が改善のテーマだった。企業で一番大事なものは「人財」であり、

雇用確保こそが「本流トヨタ方式」の改善の目的だからだった。
人財の必要性を説明すると、今の企業は資材所要量計画(MRP)を使い生産計画に合わせて材料を買う。例えば、先月2万台の車の生産が今月1万台になると、1万台分の原材料などを発注することになる。それでは2万台体制で抱えてしまった在庫は減らず、2万台の生産の工程内在庫のままで1万台の生産になると、運転資金がショートする危険がある。

その時、熟練者がいれば、工程内に在庫がどれだけ余っているのか見抜ける。膨大な品目数の原材料の発注量を適切にはじき出し、生産計画を修正して円滑に2万台体制から1万台体制に移行させることができる。このことから人財の大切さを考えてほしい。

また、工場内にある資産には在庫、設備、人財がある。この中で、在庫は現金を出せばいつでも60%、経費23%、内製加工費17%だったが、内製が掛かるが買つて加工費の一部である労務費削減や原価改善に取り

ものづくり大学名誉教授
田中 正知氏

不況の時にしか新しい生産方式への大変革はできない。好況の時にできなかったことを徹底的にやり直し、生産が減った分の人をライン外に出す。徹底した教育訓練をしてすべての工程ができるようにしたり新しい技術を習得させたりする。設備については徹底的に点検整備し、まだ時間があればその設備で新しいことができないか考える。これが不況時になすべきことだ。

平時はどうするか。トヨタ方式には「自動化」と「ジャストインタイム(JIT)」がある。自動化はあらゆるモノにつ

いて異常があったらその工程で止めて直し、絶対に不良品を流さないという。ジャストインタイムとはリードタイム短縮である。

本流トヨタ方式では「自動化により品質を確保し、リードタイム短縮に挑戦すれば収益はおのずからついてくる」と現場に教えている。世間では、リードタイム短縮をお金に換算しにくいので、数字で把握できるコストダウンが優先され現場が弱っていく。

新しい考え方では1万円分の在庫を1日寝かした

ら、いくら会社が損する

かを説明したい。利益は

先ほどの1万円分の在庫を1日余分に寝かせたらいくら損するか、という

答えだが、トヨタが一番良かった時には1日当たり212円の逸失利益があった。皆さんの会社はどうか。棚卸し資産が1年間どれだけの粗利をあげているかで計算できる。

「人財」生かし在庫を減らせ

「人財」生かし在庫を減らせ

